Ⅴ　自由記述

これからの公民館についてのお考え、課題に思われていること等について多くのご意見をいただきました。
以下は、主だったものを抽出しています。（全257件回答のうち、82件抽出）
※右側の数字は、以下を表しています。
①運営について　②施設・設備について　③職員について　④地域住民・利用者について
⑤その他

	①	②	③	④	⑤
・コロナにより地域住民の参加状況も変わってきた。公民館の在り方そのものを考え直す必要があるのではないか。	○			○	
・各市町村が今後の「公民館のあり方」をどう捉えていくかによって、今以上に大きく二分していくと思われる。一方は地域課題に積極的に関わっていく公民館であり、もう一方は自主講座と地域住民への貸館業務等が中心の公民館である。後者は、現在の職員体制を見直して、館長以下地域課題に関わる職員を配置しなければ変わらない。	○		○		
・少子高齢化が進み地方公民館も年々今までの活動が困難になっている。公民館が社会教育活動の場というより高齢者施設としての居場所づくりに変わりつつある。公民館は地域に対し何を提供できるかを行政として考える必要がある。	○				
・コロナ禍により停滞していた活動がだいぶ緩和されてきた。公民館という生涯学習の場を通して、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流し、地域づくりやつながりを促進していくことが必要ではないか。	○				
・公民館に対するニーズは時代とともに変化している。教養を高め生涯学習の契機を提供する講座運営だけでなく、地域課題を把握し、地域住民が主体となって行動し、地域と協働して課題解決に向かっていくために、まずは人材の確保であろう。これからの社会教育としての公民館の果たすべきミッションを視野に入れ、専門的な知識を有する正規職員の継続的採用と育成、そして全ての公民館への配置が必須であると考える。			○		
・これからの公民館には、単に生涯学習の場を提供するだけでなく、地域づくりの拠点としての役割を果たす機能が求められている。地域と連携し、地域課題や、防災や情報化などの現代的課題に取り組む必要がある。	○				
・この地域で生活してよかったなと思えるようなウェルビーイング度（幸福度）をあげる為、社会教育の重要性を認識して地域に伴走することが重要と考える。課題は、学校・園統合再編準備が進んでいる現在だが廃校になろうとも灯を失わない事である。	○				
・利用者や行事等の参加者が高齢者と小学生の二極化傾向にある。ミドル世代は余暇の過ごし方の多様化や仕事等での多忙により公民館行事の参加が難しいこともあるが、公民館に対する価値観そのものが変わりつつあると感じる。幅広い世代やニーズに対応できるよう、時代に即した方法を検討していかなければならない。	○				
・これからの公民館は、福祉を中心とした居場所としての役割が必要。学習機会は民間が充実してきている。若い世代はそちらを利用できる。地域にある公民館だからできる事。用事がなくても立ち寄りたくなる場所を目指すべき。	○				
・公民館は、より社会教育的分野に注力していくべきであり、このままでは他施設カルチャーセンターとの競合になる。	○				
・人口減少時代の現代にあって、公民館には地域住民の学習と活動を支援する機能の強化が求められていると聞いている。こうした社会のニーズの変化に対応していくためには、社会教育主事等が置かれていない公民館には、行政からの的確な指導が必要だと思う。	○		○		
・公民館が地域の拠点であるが、公民館使用の基準等があり、地域づくり活動が円滑に行えないなどある。広範囲な活動をするために公民館のあり方等見直しをして欲しい。	○				
・市内各公民館の会計事務や事務取りまとめ的な役割に多くの時間を費やしている本市のような中央公民館については、中央公民館のあり方と同時に、その必要性自体についても考えていかなければならない。	○				
・中央公民館職員＝教育委員会職員のため、生涯学習事業は、教育委員会の事業として展開している。さらに、ホールを直営で管理しているため、文化芸術活動を行っている。中央公民館は、地域公民館の連絡調整・統括的役割として機能しているので、今後も、地区公民館を地域学習拠点として、支援していく。	○				
・公民館には社会教育に関する専門資格有資格者の配置が必要。			○		
・現在の公民館使用は、地域の各種団体の会合などに使用される場合が多いので、今後は、公民館を使用して行う、自主サークル・グループを増やして、地域住民の豊かな生活に役立てていきたい。また、行事開催について、各種団体に負担となっている事項はなるべく精査してまとめるなど、実施方法を検討していきたい。	○				

	①	②	③	④	⑤
・当館の地域は「公民館＝高齢者が集う場所」のイメージが根強いことから、そのイメージを新たにするためには、「ネクスト利用者」と呼ぶべき、中高生や大学生、児童とその保護者（２０代～３０代を中心とする）、青年層（１０代後半～３０代）の館利用を推進する施策が必要と考え、さまざまな施策を講じている。それらの層に対して公民館の魅力を提供するために、個人利用を容易にするサービスやＩＣＴ環境の構築など、さらに取り組みを進めていかなければならないと考えている。	○				
・課題として、人口減少と高齢化が核心であるが、施設利用者および公民館講座等の参加者が固定化されており、新規利用者（特に若年層）の利用が滞っていることが挙げられる。解決法の一つとして、価値人口を創出する地域に特化した取組と、関係人口を取り入れる新規の取組の両側面からのアプローチが必要と思われるが、これらを達成するためには同時に、そのような企画を提案できる職員や市民の人材確保が急務であるように思われる。	○		○	○	
・芸術文化も生涯学習でも次世代の担い手が不足してきている。その問題を象徴するように公民館の利用する世代も高齢化が加速している。市民が参画しやすい公民館になるため、ニーズを把握し、魅力的で入りやすい社会教育施設を目指していく必要がある。ハード面、ソフト面、サービスの提供などについて改めて見直すべきところを改善していく。	○	○	○	○	
・①スタッフの人材　②施設・設備　③予算を行政としてどのくらいバックアップしていただけるかで、公民館運営のあり様は大きく違ってくると思う。	○	○	○		
・予算のあり方、職員配置人数の検討。	○		○		
・職員の働き方改革に目を向けた取り組みが必要。			○		
・真庭市の公民館は、他の機能を持つ施設と複合化し、市民センターの役割を果たしているところがほとんどである。久世公民館は老朽化のため耐震性がないなど課題があり、どのような施設と複合化していくべきかなど検討していく必要がある。		○			
・湯原は、公民館だけでなく市民センター機能や庁舎機能、図書館を兼ね備えた複合施設であるため、公民館単体では捉えづらい部分がある。見直しや整理が必要だと思われる。	○	○			
・八束公民館は職員が常駐していなく実態として公民館としての機能を有しておらず、コミュニティセンターとしての活用が100％であるため、統廃合等早急な見直しが必要。	○				
・施設の老朽化（特にトイレ・エアコンの設定）		○			
・地域の生涯学習や防災の拠点としての役割を果たすためにも、まずは施設・設備の充実（バリアフリー化、耐震化）が必要。		○			
・玉野市内では昭和50年代に建設された公民館が多く、いずれも老朽化やバリアフリー非対応など建物自体の維持管理に苦慮している。建設時より市内人口が大幅に減少しており、公民館の再編整備を図る等し、維持管理費のスリム化・マンパワー集約による事業の強化を目指す必要性がある。	○	○			
・普段から公民館を利用されている団体だけでなく、若い世代や子育て世代・社会人層など、より幅広い世代の方が利用できるようにしていきたい。	○				
・様々な場所や人、団体との協力関係を築き、人との繋がりをつくれる場の提供をしていきたい。	○				
・普段からコミュニケーションを図ることが重要だと考える。			○		
・地域の人たちに公民館をしっかり利用してもらうことが重要であると考える。そのためには、講座も高齢者対象のものから中年層、更には若年層を対象としたものを考えていく必要がある。また、コロナを経験して言えることは、高齢者の多くが人との交流ができる場を求めているということ、その場として公民館として、もっと提供していきたい。	○				
・令和２年から令和４年まで、コロナウイルス感染症の関係で、講座や事業が思うようにできなかった。事業等ができなかった反面、地域住民の意見等をより聞くことができ、事業等の見直しを行う良い機会となった。今後は意見等を反映し、より効果的な事業等を展開していきたいと思っている。	○				
・地域との関わりを大切にしていきたい。			○	○	
・住民と共に歩み続ける公民館でありたい。	○			○	
・公民館を利用したことがある人も無い人も、気軽に立ち寄れる、地域に開かれた公民館づくりを目指す。	○				
・公民館利用者のほとんどが、高齢者であり、その中でも男性利用者が少ない。男子や若者の利用者を増やすことが課題。	○				
・地域住民・関係団体による事業の企画・運営への参画と住民のニーズ把握、気軽に活動に参加していただける公民館づくり。	○				

	①	②	③	④	⑤
・地域住民の寄り処（拠点）になれる様、多様な事業の計画立案が必要。地域の方との良い関係を保ちながら、地域の方が何を望んでいるかを把握し、関連団体と連携し、講師や協力者の情報を共有しながら内容をより充実した事業に活かしていける様、努力が必要。	○				
・主催事業がマンネリ化しないように、地域の課題や地域住民のニーズに合った内容を企画し実施していきたい。	○				
・南海トラフ地震などの災害に備え、地域住民の防災意識を高める事業づくり。	○				
・郷土史を探求することで、地域活性化や地域愛を育む事業づくり。	○				
・若年の地域参画の取組として、中高生がイベント当日ボランティア活動に参加するだけでなく、企画の段階から参画し、地域の大人と交流しながら活躍する場を広げることにより、地域の人材育成はもとより地域に愛着をもち、住みよいまちづくりに寄与できればと考えています。	○				
・公民館事業をしたくても、講師がいない。毎年同じ内容の公民館事業となってしまう。	○				
・公民館をはじめとする集いの場では、地域住民同士の交流を促進する場であり、異世代や異文化間の交流を育む活動が重要です。地域の結びつきを強め、共に成長出来る場を提供することが求められますが、高齢者人口の増加や、非対面社会への対応もあり、事業への参加人数減少が課題となっている。	○				
・働き盛りの年代が、貴重な土日に生涯学習として公民館活動に参加したいと思えるような活動にはどのようなものがあるのか、発掘することが課題だと感じている。	○				
・課題として、趣味や娯楽の講座には参加者が多いが、社会教育、ジェンダー論に関するような内容の講座には参加者が少ない。また、地域住民の一部しか公民館を訪れない。	○			○	
・子育て世代、現役世代を対象とした講座の開設。どの様にしたら、イベントに参加してくださった地域の子育て世代や現役世代を、点としてのボランティアにとどまらない、地域活動、社会教育活動の核とする事ができるか。	○				
・コロナの関係でこの４年間、地域の伝統行事が中止となり、また高齢化に伴い伝統文化の継承が難しくなっている。公民館講座で地域文化の継承が出来ないか検討を進めたい。	○				
・地域の特性に合った公民館活動に取り組んでいるが、マンネリ化している面もある。	○				
・令和７年度より地元の学校園が統合され、地元の学校、園がなくなってしまう。これまでの子ども講座の見直しが課題となる。	○				
・近年は地域の人間関係が希薄になっていること、公民館以外の学習機会が多いことから公民館から人足が遠のいているように思う。また、地域のリーダーとなる人材も不足している。まずは気楽に公民館に足を運んでもらえるような事業を企画しなければならないと感じている。	○			○	
・地域の社会教育の中心となるように施設の充実と、現代的課題や地域課題に関する主催事業の充実に取り組んでいきたい。	○	○			
・楽しみながら参加が出来る様な事業を考えたい。	○				
・笠岡市のように少子高齢化・人口減少が著しい自治体においては、子どもから高齢者まで多世代が関わることを企画実施し、郷土愛を育み、子ども達が将来も笠岡市に住み続けたいと思うような新規事業を展開していく必要があると思われます。	○				
・地域の課題についてその解決策について公民館活動を通じて広く地域の皆さんに周知することはもちろん、地域に一校しかない、小学校、中学校の児童・生徒の目線でとらえた課題についてその解決に真摯に取り組む（子供は地域の宝物・子供は未来の社会人）	○			○	
・人口減、高年齢化が極端に進んでおり、いかに若者や子供たちが定着し魅力のある町をつくる事が出来るかが一番の課題であると考えている。そのためには、公民館としてどの様なことをしたら魅力・活気のある町づくりを進めることが出来るのか、色々検討し行動する必要がある。また、公民館を多くの人が利用し、地域の憩いの場所にしていくことも大切であると思う。	○				
・少子化、人口減少、地域住民同士の関係性の希薄化など、社会全体が多くの地域課題や現代的な課題に直面する中、それらを解決するための学習や行動及び拠点として、公民館は人と人をつなげる存在・場所であることが求められていく。現代的課題を含んだ講座の実施、今後の地域社会を担う人材やグループの育成等の事業の必要性は高まっている。特に将来の地域社会を担う人材である若者や子どもへ学習の場を提供し、その中で人と人のつながりが生まれることで、現在問題となっている課題や問題の解決につながるのではないかと考える。事業を行ううえでも、単発的な学習や事業ではなく、持続可能な事業を目指し、実施していく必要がある。	○				

	①	②	③	④	⑤
・地域社会で拠点となること、地域課題を解決していくことが昨今の公民館に求められている。また、高齢者の利用施設ではなく世代間交流が図られることも求められている。一方、若者は仕事やレクリエーションなどで多忙であり、公民館事業への参加のハードルは高いと思われる。そのような環境であると認識しつつ、少しでも理想に近づくように運営していきたい。	○			○	
・地域の実態に応じた学習や活動を考えていきたい。	○				
・里庄町が住み良い町になるように、地域課題を解決して町民の皆様がいきいきと活動できるように、事業を計画してゆくとともに、公民館の場で活動している団体が、学び身に付いたスキルで自立して地域課題の解決に協力していただけるように育て、つなぐ役割も大切にしたいと考えている。	○				
・地域学校協働活動推進の分野に、公民館としての参画・開拓の余地があるのではないか。	○				
・公民館の大きな役割（学習支援、地域づくり支援）を意識して、取組を進めていくことが大切である。本公民館では、学校と公民館との連携事業を進めており、学生（児童）と地域をつなぐ架け橋としての役割を、実践を通して進めていきたい。	○				
・社会教育活動の観点から、学校教育と地域社会との結びつきを強め、その調整機能を果たす。学校と地域が一体となって児童生徒の保護と育成に取り組み、地域社会での活躍の場を作っていく。また、学校と地域社会を結ぶハブとしての機能を果たす。	○				
・地域住民や企業と協力し、ニーズに応えられる企画が必要になる。	○				
・少子高齢化、人口減少により講座の開催やボランティアの育成等、様々な事業の展開が年々困難になってきていることから、町づくり等の関連団体と連携強化した公民館活動を行いたいと考えている。	○				
・高齢化社会にむけ、いかに地域を活性化していくか、若者を中心とした協働社会実現のため、小中学校、社会教育団体、自治会、民間機関との連携をいかにするかなど課題が山積している。	○				
・公民館に関わる情報について周知が不足しているので、幅広い年齢層に向けた情報発信ツールの活用。	○				○
・ＩＣＴ、流行等、変化が激しく、学術の進歩も著しく早くなっており、それらの変化に対応し、ニーズに応えていくのが大変である。また、それに付随し、国、市の方針を把握し、公民館の事業運営を行っていくための職員の学びの継続が必要である。			○		
・社会の情報化が急速に進んでいる。古いやり方やものの見方にとらわれず、時代に合った視点を持って柔軟にやり方を変えていく必要がある。	○				
・公民館は、社会教育施設として生涯学習に携わるとともに、指定避難所として防災関係機関とも連携を図る必要がある。	○				○
・災害時にWi-Fiが使えるとよい。災害避難場所になった場合、事務所にTVがあるため基本的に避難者は見られない。またラジオの電波も入りにくく、ネット環境もあまりよいとはいえない等不便な面がある。Wi-Fiがあれば情報収集がしやすくなり、避難者のストレスも軽減されると思う。そのために普段からWi-Fi接続が可能である状況が好ましいけれど、そうなると普段はただのWi-Fiにつながりたいだけの人が来館したり、容量の問題もあるのでこの問題はなかなか難しい。		○			○
・南海トラフを見据えた防災教育の拠点。	○				
・人権教育の広報・啓発活動。	○				
・学生の放課後利用などで気軽に利用できるような方策を考えたい。	○				
・子どもの居場所づくりができないかと考えている。そのための事業を充実させていきたいし、また、そうした活動がしやすい施設づくりも要望していきたい。	○	○			
・学校に行きにくい児童・生徒を受け入れる場所のひとつとして活動できないだろうか。	○				
・公民館職員は社会や地域の現代的な学習課題を捉え、公民館にふさわしい講座を立案する企画力を備えるため、研修等が必要。			○		
・公民館の利用者を増やしたい思いは強いが、少子化・高齢化・過疎化が進むスピードが速く公民館に来れる地域住民が少なくなる中での事業計画は年々難しくなる。そんな中でも工夫しながら利用者を増やしたいと切に思います。その為にも他館での取り組み事案は大変参考になります。できるだけの情報を発信して頂きたいと思います。また、交流会・意見交換会などあれば良いと思います。	○				○
・社会の変化に疎くなりがちなので、そういった研修が必要と考える。					○
・公民館の研修会等、対面で研修等を行いたいが、職員数が少なく、出られないことが多いので、オンラインで参加可能なものを増やしていただくと助かる。			○		○
・新型コロナウイルス感染症が５類に移行しましたが、その後に地域内での感染情報が数件入っており、予断を許されない状況でどの様に活動するかが課題。	○				